

鐵鋼の獨立自給策に就て

(刻下の鋼材供給問題)

工學博士 今岡純一郎

私は只今御紹介を蒙りました造船協會の一員今岡純一郎でございます、此の鐵の問題に付きまして私共が諸先輩なり經驗のある方々を差置いて、敢て一言を申し上げると云ふのは甚だ烏滸がましい次第でございますが、兎に角音頭取或は太鼓叩きの役として、又此の鐵問題に對しましては只今野呂博士より自分達は被告の側だと云ふ御話がありましたから私共は原告側の一人として劈頭第一多少造船業の見地から見たる鐵問題に付ての愚見を申し上げたいと存じます。

御承知の如く此の歐洲戰亂の影響は鐵材の生産國に非常なる變調を來たして參りまして各製鐵國は何れも自國の軍需品若くは聯合軍の軍需品の製作に追はれて東洋方面に向ひます供給が非常に不十分になり來つたのであります、此の戰爭が此儘今後一年なり二年なり續きましたならば、私共は日本には鐵の飢饉が來るであらう、否必ず來るべしと云ふ考を抱きましたのであります、此考は敢て私共斗りてなく直接事業に従事せられる方は最も早く感ぜられて居るのであります、何とかして日本に於て、鐵の獨立自給の方法を立てねばならないと云ふ意見が自然朝野識者の間に認められました現下の事情は益々其急を告げて居るのであります、此問題は敢て一つの事業、一つの會社と云ふやうな小さな問題ではない日本の國家問題として非常に重大なる問題であらうと考へるのであります、今日此の會場に御列席の方が斯くも多數に御來會のあるのを見ましても確に此の問題が急である、必要であると云ふ實際の證據であらうと考へます、併し乍ら此の問題は喋べつて居ることは何んでもないことであります、實際行ひます方法に付ては色々困難なる事情があらうと考へます、私共の關與して居る造船界に就て見まするに今日迄日本の造船業が振はない、此の振はないのには色々の原因もございませうが、日本に鐵が少いと云ふことが一大原因であると考へまして、數年

來機會ある毎に製鐵所の擴張即ち日本に於ける鐵の供給を潤澤ならしめると云ふことに付ては、造船協會等に於て時々自分の考を申上げた積りでありませう、併し乍らまだ機會が熟せず本問題が世間の耳目を刺戟するに至らずして今日に及びました所が今日は造船業斗りてなく、各般の工業が鐵の缺乏を訴へるに至りまして何とか之が救済解決の方法を求めたいと云ふので本會が開かれました次第であります。茲に聊か愚見を申上げて各位の御批評を仰ぎたいと存じます。

それで鐵材供給の問題は之を分つて二つと致して論じたいと思ひます、其一は日本内地に於ける或は東洋に於ける製鐵事業を尙ほ増進しましてさうして急速に進んで居る鐵材の需要に應じて鐵の獨立自給をやる、言はゞ是は永久^{〇〇}的救済手段^{〇〇}とでも申しませう、第二は此の永久的手段よりはもそつと緊急なる問題で、今鐵材が足りない、此の鐵材を如何にして供給するかと云ふ緊急的救済手段^{〇〇}とでも申しますか、此二つに分けて申上げやうと思ひます、第一の方の問題は勿論必要である、今日此の會合を催ふされたのも其第一の目的の爲に多數の方が御來會になつたと思ひますが、是は殆ど討論は終結されて居ると思ふ、必要である、拵へなければならぬと云ふ問題は既に決定して居るのであります、併し其決議を致したからと言つて此處半年や一年の近き内に鐵材の供給が急に殖えてくると云ふことは我々は豫期しないのであります、即ち第一の問題の解決には是非共相當の日子を要します、従つて此の當面の急を救ふ問題に付きましては、他に何とか一つの方法を廻らさなければ事業が起らないと考へるのであります。

永久的救済手段

それで先づ永久的の救済手段の問題に付て一寸愚見を申上げたいと思ひますが、新聞紙上なり或は雜誌上にも我々の耳に胼胝^{たど}が出来る程書いてあるのであります、日本に於ける鐵の需要は約百萬噸ある、然るに内地の産額は二十五六萬乃至三十萬噸であるから、其四分の一に過ぎない、跡の四分の三は輸入に待つて居る、是は大藏省の貿易年表を見ますれば明に其事實を證明して居るのであります、即ち自給して居る鐵の量は全需要額の僅に四分の一であります。すがあとの四分の三を如何にして得ると云ふ問題は、先づ

第一としましては、製鐵所を擴張するのが一番近道である、是は誰もさう思はれるであらう、此の問題は年來唱へられて居る問題でありますが、一向其發展がない、捗々しくないので我々の非常に遺憾として居る所であります、此頃承はる所に依りますれば今期の議會に製鐵所擴張案が提出されました、新に三十萬噸計畫があると云ふことであります、併し乍ら是も五年とか六年とか期間を置いて完成せられると云ふことでありますから、一二年の内に増加する額は餘り多くなかうと思ひますが、どうか是非出來得る限り大々の擴張をされて少しでも早く多量の鐵材を製鐵所が供給されることを熱望するのであります。

第二は別に民間の製鐵事業を起すことであります、日本の國運の進歩に伴ひ將來益々鐵の需要が殖えるに相違ありません、我々が目に映じます所でも現に東京でも此の兩三年來鐵骨の家が殖えて居る、或は鐵筋「コンクリート」を使つた建物杯が非常に殖えて居りますが、此の趨勢は益々鐵の需要を増加するのであります、需要のあると云ふことは何人も知つて居る、然るに從來は製鐵事業の經營は非常に困難で政府の製鐵所は多年缺損を續けたと云ふので、誰も手を着ける人がないのであります、然るに此頃新聞なり雑誌を見ますと、續々各方面に於て色々の計畫をして、製鐵事業なり製鋼事業なりを起されんとする者、若くは從來よりある設備を擴張されると云ふ計畫が多々ある様であります、私が新聞紙で見或は人から傳へ聞きましたもののみでも三菱では朝鮮兼二浦に製鐵所を拵へると云ふこと、久原では戸畑に製鐵所を置かれると云ふことである、日本製鋼所は大阪に分工場を置かれる、大阪には岸本製鐵所、藤田組製鐵所、其他製鐵會社が起ると云ふ話であります、それから川崎の鋼管會社も擴張になると云ふことであります、神戸製鋼所及川崎造船所等でも新に事業を起さんとして居る、それから私は能く存じませぬが、新聞で見ますと徳山で岩井氏が製鐵所を拵へる、諏訪では電氣製鋼會社が起るし、大森にも製鋼會社が起るさうであります、月島には日東製鋼會社が起り、東京鋼材製作所、東京製鋼會社等でも製鋼事業を起されると云ふことで、斯様に新事業が着手され若くは擴張されると云ふ話でありますが、右の計畫は何れに致しましても日本に於ける鐵材の生産が殖えまして確かに此の製鐵事業の獨立自給と云ふことの基礎を爲すものと考へるのであります、只私は願はくば此の事業に従事せ

らるゝ方々は官業の製鐵所と意見の交換をせられまして、比較的僅かの資本でやられる事業ならば成るべく官業の一部を民業の方で負担せられてさうして民業の發達を期せられるやうにしたい、又民業の互の間でも成るべく設備の重複を避けるやうにしてさうして互に有無相通ずる手段を取られんことを望むのであります、今日の會合の如き各種の代表者がお寄りになつて居る席で、是等の事業の内容を御承知の方が胸襟を開いて其計畫を發表せられてさうしてお互に協力して、此鐵の飢饉を免れる手段を講ぜられたいと考へるのであります、それが矢張り鐵の需給をして圓滑ならしめる一つの「エレメント」になりはせぬかと考へます。

第三には製鐵所の組織を變更して事業擴張を爲すこととあります、現製鐵所は近年段々利益が揚がると云ふこととあります、故に金さへあれば其擴張は比較的容易ではないかと思ひます、所が官業なるが故に常に財政上の都合に依つて兎角擴張が意の如く進んで行かぬやうに見へます、併し乍ら今之を全然民業に移して仕舞うと云ふことは色々の關係上私共が覗ひ知ることの出来ない事情が多々あるかも知れませぬが、或は之を官民合同の組織にしてさうして一般經濟的の原則に従ふ需要に應じて、供給を潤澤にすることが必要でなからうか即製鐵所の組織を改めて全然之を民業に移すか、或は官民合同の會社組織にしたならば容易に擴張が出来るのではないか、斯う云ふことも一つの意見として我々も考へ多數の人も申して居るやうに存じます。

何れに致しましても以上述べました三つの方法は日本に於ける鐵材の生産を増加する方法でありますけれども兎に角鐵の獨立自給を今後一二年の内に十分に解決すると云ふことは六かしいと思ふ、併し乍ら六かしいからと言ってじつとして居る譯にも行きませぬ、大資本家が蹶起して此事業に投資をされたならば出来ないことはなからうかと考へます、現時官營製鐵所の問題を論議するのは私共の範圍以外のことであるかも知れませぬ、併し乍ら此席には此事を論議せられる自由を有して居られる方が多數居られるのでありますから、それ等の方々が遺憾なく本問題を審議せられんことを望むのであります。

緊急的救濟手段

第二は緊急的救濟手段であります、現時に於ける鐵材の需要供給の關係は著しく均衡を失し、或所では非常に安い直段で原料を手に入れて、さうして非常に高く賣つて居る所もあるやうに聞及んで居る、或所では非常に高い金を出してもどうしても手に入れられぬと云ふことを訴へて居る所がある、即ち需要供給がどうも圓滑に行つて居ない、此の鋼材の需要供給を圓滑にすると云ふ問題が私は刻下の緊急問題ではないかと思ひます、此問題になりますと、多少鐵鋼の獨立自給と云ふことと少し離れますが、此の際第一の手段としては成るべく多數の外國輸入品を入れることを主張したのであります、只今私共從事して居ります造船業の見地から見ましても材料を外國の製鐵業者に注文し契約濟になつて居るものが多いのであります、然るにそれが約束通りの期日に日本へ參らないのであります、それをこちらへ來させるやうにする方法としましては外國製鐵業者をして可成本邦の注文通り迅速に生産せしむる様にすべきは勿論でありますが又其の鐵材を運ぶ船がないと云ふことが一つの問題でありますから、此の際鐵材の輸送に要する船腹供給の手段を講ぜねばならぬと思ひます、一寸時間を拜借しまして今日日本に於ける造船業の概略と鐵材との關係を申し上げたいと思ひます、只今日本で既に製造し若くは近き將來に製造せんと決定いたしました船が大體百艘で總噸數は四十四萬噸斗りあります、尙ほ此外に新船を造りたいと言つて居る船主があり一方造船所に於て之を造る餘力があるに拘はらず百艘四十四萬噸で今日は釘附となつて仕舞つたのであります、それは全く鐵材の供給がないと云ふことに因るのであつて誠に遺憾至極のこととあります、前段申し上げました百隻四十四萬噸の船に要する鋼板及形鋼は約二十二三萬噸であります但其の内外國供給別の大體はどうなつて居るかと言へば、日本の製鐵所に注文されて居るのが十五%、英國に注文されて居るのが三十%、米國に注文されて居るのが五十五%となつて居ります、右の内日本の製鐵所及米國に對しては鋼板の方が多い、勿論製鐵所にも多少形材もやつて居りますけれども、「アングル」等の「シエープス」類の大多數は英吉利の製造業者の方に廻つて居るのであります、所が御承知の如く、英國は全力を注いで軍需品の製造に従事して居るものと見へまして「アングル」及「シエープス」類を造らなくなつたのであります、假令造つて居つても政府の官吏が來て造ることを止めさせると云ふことを聞いたのであります、さう云ふ風でありますから

造船材料の如きも昨年二月に注文された材料が今日まだ到着しない、さうして前途いつ到着するのであるか甚だ不安なる状態にあるのであります、それから亞米利加はどうであるかと申しますと、亞米利加は御承知の如く非常なる鐵鋼の生産國であります、殊に今度の戦争で交戦國から多大の注文を受けて居るのでありますから平時に比べまして或は倍額位の生産力があるのであらうと想像されるのであります、さうすれば亞米利加の産額は實に莫大なものであらうと思ひますが、是も矢張り昨年の十月頃に賣止になりまして、それ以後の注文に應じないと云ふことになりましたから、今日の日本は右を向いても左を向いても兎に角鐵の材料を急速に得ると云ふことが出來ないやうなことになるので参りました誠に心細い次第と言はなければならぬのでございます、此問題に付きましたは多少解決の方法はありはしないかと思ふ、詰り具體的に如何なる方法を取れば英國なり米國なりの製造業者をして日本の注文に應じて製造せしむるかと思ふことを研究して見る必要があらうと思ふ。

第二の緊急救濟手段としては内地の製鐵所の生産方針を出來得る限り有効な方面に向けられたい、前に申上た通り外國からの輸入が先づ止つたのでありますから、此上は少しにても内地に出來る物を有効なる方面に向けて貰う方法を研究するのが大切であらうと考へる、随分製鐵所の當局者は各方面の注文を引受けて何れを向いて見ても御尤、どれほどれを向けて宜いかと云ふことに迷はれて居るのではないかと想像するのであります、平素から製鐵所と或る特約をして一定の原料の供給を受けて居られる者もある、又特別の事情で或種の生産品に付て是非製鐵所がそれへ向けなければならぬと云ふ品物もあるらしいのであります、併しそれは平素の問題である、今日のやうな鐵の飢饉を訴へる時代にありましては是非製鐵所當局の方に於きましても十分深い御考慮を願ひたいと考へます、どう云ふ者に鋼材なり鐵材なりを配分することが國家的の見地から一番有効であるか而して其方面に生産を向ける爲めには其他の方面の方は暫く犠牲になつてやると云ふ考で此の問題を解決しないと、兎に角百に對する二十五しか出來ぬ物を以て百の目的を満たすと云ふことは到底出來ぬのであります、一例を申上げれば、家は木と煉瓦でも出來る、是非鐵でなければならぬと云ふことではないと思ふ、さう云ふ時代には先づ建築家は鐵材を利用されることを止めて貰ひたい、甚だ蟲

の良い話でありますが、さう考へるのであります。外の材料で間に合ふものならば出来得る限り鐵は儉約して戴きたい、甚だ私から申上げると我田引水のやうであります。今日の世界の海運界の様子を見ますとどうも船へ材料を「サプライ」するのが日本としては一番利益が多くはないかと考へます、現に造船側に於ても出来得る限り鐵以外の材料の使用に盡しつゝあります、即ち從來木船は二百噸迄位のを限度として居ましたが此頃は鐵材の缺乏により七八百噸迄のものを木材を以て處々に造つて居ます、然し木材は其性質上之れ以上の大船を造るには適しない、仍つて大型の船を造るには是非鐵鋼材を使用する外ないのであります、今一寸船にどの位の鐵鋼材が入るか云ふことの大體を申上げて見ますと、極大數であります、平均總噸數の約半分には相當する噸數の鐵鋼材が必要であります、例へば一萬噸の船に對して約五千噸の鐵鋼材が入る、其の鐵鋼材一噸で載貨重量即ち船の運び得る「デットウェイト」がどの位かと申しますと總噸數の約一倍半に當りますから鐵鋼材一噸に付て荷物を運ぶ力は三噸と云ふ勘定になるのであります、所が現時の狀況によると船を拵へて世界の「マーケット」へ出しますと一年に載貨重量一噸當りの稼ぎ高は少くも百五十圓以下と云ふことにはないのであります、即ち新造船建造に使用する鋼材一噸は一箇年に四百五十圓儲けてくる、是だけ外國の正貨が日本に儲けて來られるのでありますから此際一艘でも新造船が殖えると云ふことは國家的工業たる造船業を隆盛ならしむるのみならず日本に金を儲けて來ると云ふことになるのである、其外色々補助工業も起りませう、從て職工の養成も出來るのみならず、從來東洋方面のみに限られて居つた「シッピング」が益々世界に廣がつて行きさうして日本の船が今後世界の競争場裡に勝を制することになる其れには今が一番良い時機で實に千載一遇の好時機である、然るに今前段申した如く今日若し英國に注文した材料が來なかつたならばどうでありませうか、今拵へ掛けて居る船は皮計りはありますが、骨がない、骨のない船の屍骸が各地の造船所にごろ／＼横たはると云ふ憂き目を見ないとも限らぬ、斯様な時代が來ましたならば誠に戦慄すべきことと考へるのであります、此の救濟は是非共私共からも日本の製鐵所當局者の方に特に御願ひして猛省を煩はしたいと考へて居るのであります。

之を要するに鐵鋼材の獨立自給と云ふ問題は非常に重大な問題であります、併し之が解決をさう容易すくすること

は出来なからうと思ひます、今日の問題の獨立自給と云ふことと少し横道に外れましたやうなことを申して相濟まぬと思ふのでありますが、兎に角造船界に於ては今日は前段申上げたやうな事情に迫つて居るのでありますが、併し是は獨り造船界斗りではないと思ふ、機械工業と雖も然り、電氣工業と雖も同じと思ふ、今足りないものを如何に「サブライ」するかと云ふことが、獨立自給よりも先立つて緊急問題であらうと思ひます、今日は各方面の方が多數お出でになりました此の席で十分御意見を聴くことが出来すのは幸であります、只私は音頭取の資格で一言造船界の状況を申上げたに過ぎぬのであります、甚だ詰らぬことで御清聴を汚しました(拍手)

鐵鋼の獨立自給策に就て

工學博士 野 呂 景 義

私が今日此處で御話するに付てちよつと御斷りを申上げます、通知書には日本鐵鋼協會理事長野呂と書いてありますが、實際此鐵鋼協會に於きましては夙に我が國の製鐵事業の發展と云ふことに付きまして、特に調査委員を設けて現今調査に従事しつゝありまして、其結果は來る三月の總會に於て世に公けにする考へでありますから、未だ其結果を申すことは出来ませぬ、今回までに其結果が見えて居つたならば幾分か諸君の御參考になることもあつたと思ひますが、残念ながら今日まで其運びに至つて居りませぬ、故に今日私は日本鐵鋼協會を代表して鐵に付ての意見を述べると云ふことが出来ませぬ、今日私が申上げるのは全く日本鐵鋼協會と離れて野呂一個の考を申上げる積りでありませぬ、日本鐵鋼協會の代表者と云ふことでなく御聽取りを願ひたいのであります、私は今日の會に出て御話をするには少しも豫期して居りませぬ、實は旅に出て居りまして、一昨日戻つたやうな譯で、協會から旅先さへ今日此處に出て話をするやうにと云ふ通知でありまして、急いで歸つて來たと云ふ始末でありまして、何の準備もありません、唯現時の有様を見て頭に浮んだ所の一二項を御話して、さうして之を今日の討論の問題にして戴きたい、詰り言ひ換れば討論の問題を提出すると云ふに過ぎないのであります。